

# 館報

No. 29

1984.1.

徳島大学附属図書館

一字の是非  
図書館と国民性  
閲覧業務の電算化について(案内)  
DIALOGの利用について

## 一字の是非

竹治貞夫

私の専門とする中国古典文学の世界では、一字の是非を問われることがしばしばある。

採菊東籬下 菊を採る東籬の下、  
悠然見南山 悠然として南山を見る。

これは陶淵明の「飲酒」と題する詩の中の2句で、漱石の『草枕』にも引用されており、東洋の詩境を示す代表的な詩句として広く知られている。南山は景勝の地として名高い廬山のことで、九江市の南にあることから南山とも呼ばれる。淵明の故郷はその東のふもとにあった。庭の東のまがきのもとで菊を採っていた彼が、ふと頭を上げると秀麗な南山の姿が目にはいったので、ゆったりとした気分でそれを眺めたというのである。

ところが、この中の「南山を見る」の語が「南山を望む」とも伝えられており、現に優れたアンソロジーとして古来有名な『文選』に収められたこの詩では、「南山を望む」となっている。そこで「見」がよいのか「望」がよいのか、この詩についての一字の是非優劣が、文学上の問題となるのである。

この問題に明快な判断を下しているのは、宋の蘇東坡である。彼は言う、「菊を採るついでに偶然山を見たのであって、初めから意を用いずに景と意とが会した。故に喜ぶべき

なのだ。近歳の俗本は皆「南山を望む」としているが、それでは一篇の神気がすべて索然とつきてしまう」と。つまり「見」が自然に目にはいるという意であるのに対して、「望」は意識的に注意して眺めるのであって、それでは「悠然」の語とひびき合わず、この作品の詩興がそがれてしまう。この句を生かすものは「見」の一字であるというわけである。

漢字は表意文字であり、漢詩文は表現が簡潔で一字一字の含蓄が深いから、特にこうした一字の是非が争われるのである。今一つ例を挙げると、蘇州の寒山寺の詩碑で有名な唐の張継の「楓橋夜泊」の詩に、

月落烏啼霜滿天 月落ち烏啼いて霜天  
に満つ、

江楓漁火対愁眠 江楓漁火 愁眠に對  
す。

とある。この中の「江楓」の語が「江村」とも伝えられており、「楓」か「村」かの一字の是非が問題になっている。この詩碑の筆者である清末の大儒俞曲園は、碑の裏側に考証の文を書き、宋代の『中興紀聞』に載せられたものは「江村の漁火」となっていてその方がよしとし、「千金の一字はれ江村」の句で結ぶ自作の詩を併せ刻している。わが国の謡

曲「三井寺」や「道成寺」にもこの詩句が引用されているが、いずれも「江村の漁火」と言っており、もとは「江村」であって「江楓」ではなかったと考えられる。思うに「江楓漁火」では描写が散漫であり、「江村の漁火」の印象鮮明なのに及ばない。「江楓」は詩題の「楓橋」につられて、後人が改めたものであろう。

さて私は中国古典研究の傍ら、10余年前から近世阿波の漢学史に関心をもち、その研究をも手がけてきた。わが附属図書館は、近世の郷土史料としては一級品に属する蜂須賀文書の『家臣成立書』を蔵し、また豊富な郷土研究資料を含む島田泉山旧蔵の「泉山文庫」があるので、以来私は足しげく図書館に出入りするようになった。先年館員の努力によって『郷土資料目録』が編集刊行され、また文部省から多額の特別経費の交付を受けて、虫食い破損の少なくなかった『家臣成立書』に裏打ちを施し、これを全249冊に製本して永久保存に堪えるようになったのは、誠に喜ばしいことである。

ところで郷土資料を検討し考察する際にも、一字の是非を争うべき場合がしばしばあることを、私は経験した。歴史は事実の正確な記録を第一義とするから、人名や年号の文字に誤りがあってはならないはずである。それは漢詩文の語句の場合とは趣を異にするが、一字の是非を争うという点では同じである。次に1, 2の例を挙げてみよう。

「泉山文庫」の中にある『栖龍閣詩集』3冊は、最後の平島公方となった第9代足利義根の詩集である。この義根公の父、第8代公方は学を好み、京儒島津華山を招いて子弟に学ばせた。自らも詩を作って、江村北海編『日本詩選』（安永3年1774刊）などに5首の作品が残っている。その名は版本には皆「義宜（よしのり）」と記す。しかるに『徳島県史』をはじめ戦後に出た郷土の活字文献は、すべて「義宣」としている。宜と宣と形はよく似ているが全く別字であるから、どちらかが誤

りである。その是非を判断するためには、別の確かな資料を見つけなければならない。

この確かな別資料が、外ならぬ泉山文庫の中にある。泉山の自筆で『平島家西光寺過去帖其他』と題する写本に、「義宜」と明記されているのである。赤池の西光寺は平島公方の墓所のある寺で、この過去帖の原本は昭和17年の火災で焼失したが、幸いにも泉山は焼失以前に抄写しておいたのである。これで第8代公方の名は義宜であって義宣とするのは誤りであることは確かであるが、私はなお念のため、平島公方の子孫で京都に在住する足利進悟氏に家蔵の系図を調べて頂いたところ、系図の文字もまさしく義宜であるとの返事を得た。徳島新聞の夕刊に現在連載中の、童門冬二氏作「よしこの太平記」は、この第8代公方を主要人物の1人として登場させており、私は甚だ興味深く愛読しているが、初めのうちその名は義宜となっており、作者の古い文献資料に対する忠実さに敬服していた。それがいつしか文字が変わって、このごろは義宣とされている。恐らく『県史』以下の活字文献を信ずる読者からの指摘によって改めたものであろうが、惜しいことである。

今一つ例示すると、阿波藩儒であった柴野栗山が幕府の儒官に移った後、その跡を継いだ甥の柴野碧海は、江戸文化の最も爛熟した文化・文政期における天下有数の文章家であった。その詩文を集めた『枕上集』4冊も、また「泉山文庫」に入っている。この中に「豊岡新田碑」と題する文が見えるが、これは板野郡松茂町の豊岡新田を開いた坂東茂兵衛の功績を記録し賛美した碑文である。文中に「翁は文政十年に没す」という句がある。同地の豊岡神社に現存する碑面は剝落して文字が見られないが、大正13年刊の『板野郡誌』に剝落以前の碑文から写した文が載せられていて、それには「文政十年」が「文化十年」となっている。また川内町宮島の宝生寺墓地に茂兵衛の墓があり、没年時を「文化十癸酉十一月十七日」と刻する。すると版本『枕上集』の

「文政」は、「文化」の誤りであることが明らかである。文化10年と文政10年との間には、14年の歳月が流れている。化と政との一字の相違で、史実に大きな誤りが生ずるわけである。

活字本でも版本でも、また写本でも、一つ

だけの資料を無批判に信ずるのは危険である。それにしても、一字の是非に対して常に神経過敏であるのは、固陋な漢学の徒の因果な習癖と称すべきものであろうか。

(教育学部教授)

## 図書館と国民性

岡田 美津子

近年、学問の飛躍的な進歩に伴って学会は一方でマンモス化の傾向をたどり、他方で細分化され、又、学際的分野においては新しい学会の誕生といったことが相つぎ、最近では一人が数多くの学会に所属することが当然のことのようになってしまっている。学会の数が増加するということはそれだけ学会誌の数も増加し、さらにそれらに関連した商業誌も増加するわけで、専門外のことはよくわからないにしても私が関係している専門分野でおこっている現象から類推すると、相当な数の雑誌が出廻っていることになる。現に医学部だけでも図書館で購読している雑誌の数たるや300種以上に及ぶが、これも当然のことながらすべてではなく、限られた予算の枠内に入れるべくできるだけ重複を避け、且つ需要の多いものにある程度限定されてのことなのである。

ところでこのような膨大な雑誌や図書を収納する図書館のスペースの問題であるが、蔵本分館ではつい4～5年前に手狭になって増築されたばかりである。それも実際の増築に先立って何年も前から場所の問題等色々と検討されていたと記憶している。しかしそれも現時点ではすでに手狭になりつつあることが明らかである。図書館の担当の方々が相当苦勞して収納の配置等常に考えて下さっているらしいことに時々気がつくのである。すなわ

ちそれほど使用頻度の多くないものはずっと上方の、とともとれそうにないような箇所に収められたり配置が時々変わっていて気づくのである。それにしても年間どれ位のスペースが必要になるかということ位は凡そ見当がついているわけで、折角増築する時にどうしてもっと思い切って広げるような措置をとれないのかとはがゆく思うのは私一人だろうか。これはこと図書館に限ったことではなく、実はあらゆることに通じていると思う。今少し勝手な意見をのべさせてもらおうと、例えば図書館の場合、何十年という単位の長期に亘って充分の図書が収納できるような場所を一時に完成させておいた方が、少しずつ増築するよりも結果的に経費も少なくすむと思うし、在庫の書籍類をあちこち何度も動かし廻る手間も省けると思うし、第一建物も見苦しくなくてよいであろうし、あらゆる点ですぐれていると思うのである。同様のことが他の色々な面でも言えるのであって、例えば講座増にしても近い将来に増設されることが明らかな場合でも増設後何年も経過しないと新築されず、当分は古い建物で何度も一時的な補修をくり返ししながら（結構費用もかかることであろうが）新しくつくられるのを待たされる場合が多い。さらに事は大学に限ったことでなく、国中の道路があちこちで何度となく掘り返されては埋められ、又掘り返すことをくり

返しくり返しやっていることを見ても、ずい分無駄が多いように思えてならない。それにはそれなりの事情があるのだと言ってしまうばそれまでだが、もう少し遠視眼的なものの見方と対応が出来ないものかと常々思うのである。

数年前 Univ. of South Florida に留学の機会を得た。その大学は創立20年余りにしかならない新しい州立の大学であるが、Medical Schoolにある図書館ではバックナンバーを揃えて一応整っている。ここで何よりも驚いたのは書棚のスペースである。恐らく何十年も先を見越してのことと思われるが、はるかに未利用の棚の方が多いのである。それほどあちこちの大学を知っているわけではないが、以前に留学したことのある Univ. of Washington でも図書館のりっぱさにびっくりしたのを記憶している。もう少し Univ. of South Florida の Medical School の図書館を紹介させていただくと、机や椅子も様々なタイプのものを使用しており、ほんの一寸したメモ程度に適した場所から大きな机を備えたところ、又、ある場所ではゆったりとくつろいで読書にふけることが出来そうな椅子やソファーも備えている。又、開館は朝7時より夜12時迄、日曜日の午前中のみ休館となっている。とにかく、図書館というのは誰にでも非常に利用しやすく、又、居心地のよい場所となっている。その代り飲食は固く禁止して清潔さを維持している。

このようにアメリカの大学で図書館が利用しやすくなっているのには私の勝手な解釈かもしれないが、それなりの理由があるように思われる。まず、アメリカの学生は教科書すら自分が不必要になればそれを本屋へ持って行って売却するし、又、古本屋から安い必要な教科書を買ってきて使用するのが習慣になっているようである。趣味の本は別として教科書類をずっと手元におくことはないらしい。

研究者（理科系しかしらない）に至っても然りで、日本の研究者のように個人で研究に必要な書籍類を購入することは殆んどないように思う。各Departmentにある図書室か大部分は大学の図書館を利用している。従って如何なる時でも自由に図書館が利用できるようになっていないと非常に困ることになる。これに對して日本の場合はやたらと個人の蔵書を増やしたがる傾向にあるように思われる。これは図書館が利用しにくいからかどうか、どちらが先か後かわからないといった面もあるのであるが。確かに自分の手もとにあれば何時でも見られるという利点はあるが、それ程経済的に裕福でもない研究者が、なるべく多くの専門書を個人で持とうとすればどうしても海賊版に頼らざるを得なくなり、このことが何時迄たっても違法出版がすたれない原因となり、そして著作権に対する考え方を非常にルーズにしている由縁のように思う。今日ではこのような日本の実情はアメリカでは半ば公けになっており、向うの教授からあなたは小型版の“Methods in Enzymology”を持っていないのかと聞かれたりしたものである。日本のこのようなルーズさにひきかえ、アメリカでは雑誌のコピーもやたらとしないようであり、コピーに関してははかなり不便な思いをしたことがある。これは著作権を大事に考える気持ちのあらわれであろうと思われ、このことは外国からの文献請求が今日でも非常に多いことからもうなずける。

このように物事に対する価値観の違いが色色の物の見方に違いを生じ、図書館の利用のし方からもっと大局的には国全体の施策に至るまであらゆる事柄に反映され、その国を特徴づけることになっているのであろうか。図書館だけを見ても国の縮図そのものを見ているような気がしてならない。

(医学部助教授)

# 閲覧業務の電算化について(案内)

附属図書館の本館及び蔵本分館では、昭和59年4月から図書等の貸出し・返却の処理業務を電算化します。この新しいシステムは、利用者ごとに「図書館利用証」を所持しないと図書の貸出しが受けられません。現在のように貸出時に利用者名や書名等を用紙に記入する必要がなく、また、返却時も図書を係員に渡すか、ブックポストに投入するだけで済みますので、利用者にとっても手続きが簡単になります。

なお、このシステムを実施するに当たって利用者は次の事項にご留意ください。

1. 昭和59年1月から3月までは、テスト期間として、現行方式と新方式を併せて運用しますから、ご協力願います。
2. 「図書館利用証」は、運用係カウンターで交付しますから早めに手続きをしてください。
3. 「図書館利用証」の交付には、「図書館利用証交付申請書」の提出が必要です。この申請書は、本館では運用係にあります。蔵本分館ではすでにお手許に配布していますので「図書館利用証交付申請書の記入のしかた」にしたがい記入の上、係員に提出してください。
4. 新しいシステムによって現在と異なる点は、次のとおりです。

## (1) 本館関係

### ● 貸出可能冊数

一般学生

2冊以内→5冊以内

大学院学生及び専攻科学生

3冊以内→5冊以内

### ● 貸出期間

大学院学生及び専攻科学生

15日以内→10日以内

### ● 貸出希望図書等の予約が可能になる。

### ● 返却期限のチェックが機械化される。

(表)		(裏)	
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">図書館利用証</p> <hr/> <p>氏名 _____ (有効期限)</p> <p>所属 _____ 徳島大学附属図書館</p> </div>		<p style="text-align: center; font-weight: bold;">注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 図書館を利用するときは、必ずこの利用証を携帯して下さい。</li> <li>2. 利用証は、表記の本人以外は使用出来ません。</li> <li>3. 利用証を紛失したとき、住所・氏名等を変更したときは、ただちに総務科カウンターまで届け出て下さい。</li> <li>4. 卒業・退学・退職等の場合は、ただちに返却して下さい。</li> <li>5. 折り曲げたり汚損しないようにして下さい。</li> </ol>	
<p style="font-weight: bold;">図書館利用証交付申請書</p> <p style="text-align: right;">昭和 年 月 日</p>			
フリガナ	身分(該当箇所を○で囲んで下さい)		
氏名	◎	1 学部学生, 2 大学院生, 3 専攻(科)生, 4 研究生, 5 聴講生 6 附属学校生, 7 短期大学生, 8 教官, 9 職員, 10 その他	
所属学部(部局)	学科・課程・学年(所属部, 課, 係, 教・研究室等)		
現住所			
郵便番号	—	電話番号( )	—
フリガナ			
届省先			
郵便番号	—	電話番号( )	— 父兄氏名
処理区分	1 新規 4 削除	2 再発行 5 留年	3 変更
交付年月日	1 年 月 日	2 年 月 日	利用証番号
徳島大学附属図書館			

---

切……取……線

図書館利用証交付申請書の記入のしかた

1. 記入は正確に楷書体で書いて下さい。
2. 該当欄はすべて記入して下さい。
3. 現住所にはフリガナを付けないで結構ですが、下宿先、寮、マンション等を記入された方は、その読み方にフリガナを付けて下さい。
4. 教職員は氏名、身分、所属学部(部局)、学科、課程(所属部, 課, 係, 教・研究室等)の欄まで記入して下さい。ただし非常勤講師は現住所を記入して下さい。
5. 最下段太線内は記入しないで下さい。

- 貸出票への諸記入が不必要となる。
- 返却時の検印を受ける時間のロスがなくなる。
- 一枚の利用証で蔵本分館も利用が可能となる。

(2) 蔵本分館関係

● 貸出期間

図書 次週火曜日まで→10日以内

雑誌(学部学生及び附属学校生を除く)

次週火曜日まで→5日以内

- 返却期限のチェックが機械化される
- 許可証及び貸出票への諸記入が不必要となる。
- 返却時の検印を受ける時間のロスがなくなる。
- 一枚の利用証で本館も利用が可能となる。

5. 借出中の図書は期限内に返納してください。1冊でも未返納図書があると「図書館利用証」の交付ができません。

## DIALOG の利用について

DIALOG 情報検索が本学に導入されて1年が経過した。今年度4月から9月の利用状況は、表1(月別利用状況)、表2(ファイル別集計)となる。この半年間に利用した人は、

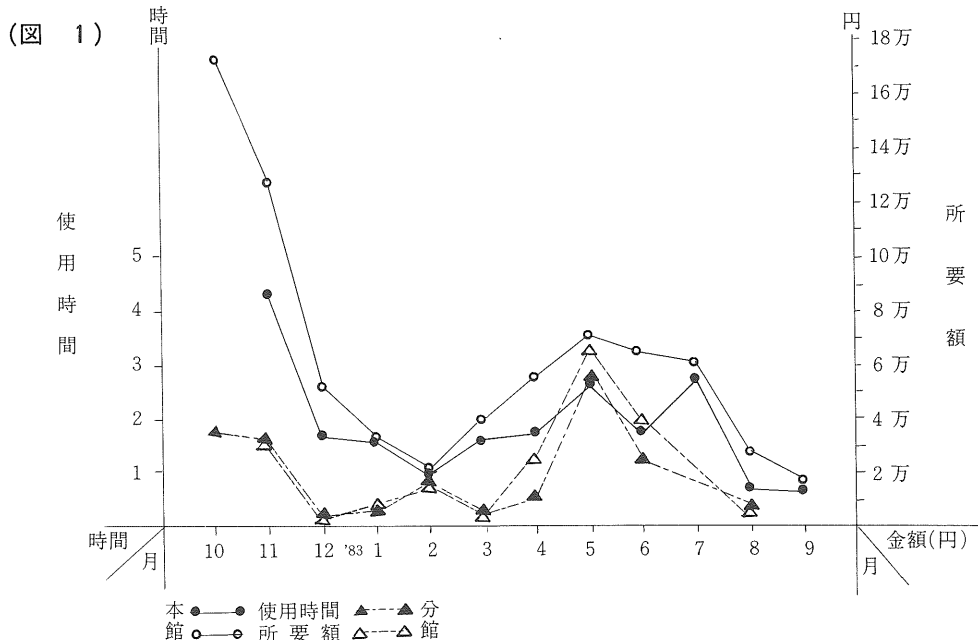
教育学部	5名	医学部	9名
歯学部	1名	薬学部	4名
教養部	3名	短期大学部	3名

であった。また、DIALOG導入以後1年間の利用状況をグラフに表わしたのが図1である。

現在研究中のこと、あるいは、これから始めようとする事に関する世界の動きをつか

むてっとり早い方法の1つがDIALOGによる検索である。DIALOGは現在二百あまりのデータファイルを持つ。また同じ分野の中でもいくつかのファイルがある。その中から、自分の調べたい事項に最も適切なものを選ぶのはむづかしい。そういう時に、DILINDEX (file 411) を使うと便利である。

- どこから検索をはじめればよいか
- 自分の選んだファイルは検索ファイルとして適切か
- どのファイルを最初に使うべきか



- 広すぎる検索結果を限定するために新しい検索用語を加える必要があるか
- 狭すぎる検索結果を拡大するために同語の追加が必要かななどを判別でき、より

効率のよい検索の手助けとなる。このファイルの使用料は1時間当り\$35-,10分使うと約2,800円となる。なお、くわしくは、運用係におたずねください。(運用係 岡田 記)

(表 1 月別集計) (1983年 4～9月)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
本館	人数 (人)	5	11	4	9	5	2	36
	件数 (件)	18	48	13	24	12	3	118
	使用時間 (時間)	1.738	2.651	1.731	2.735	0.76	0.626	10.301
	プリント件数 (点)	142	68	475	174	230	0	1,089
	タイプ件数 (点)	118	11	54	38	14	24	259
	所要額 (百円)	577	716	651	611	276	167	2,998
分館	人数 (人)	4	8	3	—	2	—	17
	件数 (件)	21	34	16	—	12	—	83
	使用時間 (時間)	0.544	2.757	1.254	—	0.367	—	4.922
	プリント件数 (点)	158	334	0	—	0	—	492
	タイプ件数 (点)	28	104	102	—	0	—	234
	所要額 (百円)	250	641	382	—	62	—	1,335

(表 2 ファイル別集計) (1983年 4～9月)

ファイル名	ファイルNo.	本館					分館				
		人数	件数	使用時間	タイプ・プリント件数	使用料	人数	件数	使用時間	タイプ・プリント件数	使用料
AMERICAN MEN & WOMEN OF SCIENCE	236	2	3	0.246	0	23.37	—	—	—	—	—
BIOSIS PREVIEWS	5.55 255	7	16	2.354	31	109.105	1	3	0.086	0	5.59
BOOKS IN PRINT	470	1	1	0.039	0	2.535	—	—	—	—	—
CA SEARCH	308.309.310 311.320	18	63	4.669	403	391.072	13	54	2.728	392	252.948
COMPREHENSIVE DISSERTATION ABSTRACTS	35	1	1	0.256	0	17.92	—	—	—	—	—
ERIC	1	1	1	0.068	0	1.7	—	—	—	—	—
LC MARC	426	2	2	0.126	231	40.27	—	—	—	—	—
MATHFILE	239	2	2	0.091	0	5.005	—	—	—	—	—
MEDLINE	152.153 154	4	8	0.377	17	15.745	7	26	2.108	334	123.88
OCEANIC ABSTRACTS	28	1	1	0.085	7	7.955	—	—	—	—	—
PHILOSOPHER'S INDEX	57	1	2	0.413	343	74.165	—	—	—	—	—
PSYCHINFO	11	6	6	0.993	316	124.115	—	—	—	—	—
SCISEARCH	34.94	3	9	0.343	0	56.595	—	—	—	—	—
SPIN	62	3	3	0.241	0	8.435	—	—	—	—	—

## 蔵本分館情報調査係の役割

学術情報のめざましい発展にともない、図書館業務も、従来の姿を、大きく変えようとしています。紙で作られた情報媒体がペーパーレス（エレクトロ化）へと変革していこうとしています。それ故、必要とされる情報源はデータベース化され、その中の一部分を取り出し、それによって研究しなければならないような時代も間近になってきています。今までのブラウジング（図書や雑誌を見ていると思わぬ情報を得ることがある）効果はなくなるでしょうが、高い購読料を支払わなくてもよい時代にはなるでしょう。

このような時代の到来に即応すべく、私達の小図書館に「情報調査係」という名称で係が新設されました。とはいえ、実情は、従来運用係で行っていた業務の一部である参考業務とその関連業務を情報調査係の業務としたにとどまり、係員も運用係から分離したにすぎません。ただ、現時代を担う情報サービスの発展を望み、図書館員の向上姿勢を増加させるべく努力しています。現段階では、まだまだ冊子体の情報源が情報化社会を支配している関係で、その情報源たる資料の整備に力を注いでゆかねばなりません。

いろいろな制約の中で、よりよい働きができるよう頑張りたいと思っています。まだ歩み始めたばかりで十分なことは何一つできないかもしれません。限られた人員と資料の中であくせくしています。

そのような情報調査係が、今どのような役割を担っているか、もう少し具体的にお知らせしましょう。

情報調査係は、蔵本分館運用カウンターの北側（前目録室）にカウンターを設け囲りに参考資料を配置し、利用者の方も自由に閲覧できるようになっています。現在係では、次のような仕事をしています。

1. ある特定の人または主題についての文献を調査したいとき—JOIS（日本科学技術情報センターの提供）やDIALOG（米国ロッキード社の提供）による On Line 文献情報検索によって調査していますが、現在、校費による申込しか受付けておりません。ただ、簡単な文献調査であれば、二次資料による調査もしています。

2. ある特定の人や機関の経歴や研究機関の内容などを知りたいとき—参考資料で調査します。

3. 学内に、必要とする資料がないとき—国内外の図書館や研究機関等へその資料の照会、複写、借用依頼をします。

4. 常三島地区にある資料を複写したいとき—校費に限り受付し、複写文献を取り寄せます。

5. 他大学の図書館を利用したいとき—国立大学図書館間共通閲覧証の発行や、資料利用依頼をしています。

6. 二次資料（索引、抄録誌等）の使い方がわからないとき—それぞれの分野の資料に接し説明いたします。なお、薬学部第4年次学生や、医学部栄養学科第2年次学生に対しては、毎年、一定時間に文献利用指導をしています。

7. 学内の利用者の方には直接関係ありませんが、学外の公・私立大学、病院、研究所等からの文献複写依頼を受付けています。

その他、図書館資料に関係したことであれば、どのような御相談にも応じます。資料の所蔵箇所や、雑誌の省略誌名などの簡単な質問は、内線6520へお電話してください。

分館の資料で回答できない場合は、他館へも調査依頼をしています。

利用者の友として、気軽にお尋ねください。質問が多ければ多い程、私達の研修の場になりますので、よろしく願います。



いろいろな情報媒体を駆使して、必要とする情報を網羅的に収集、整理し、提供する技術が今後の図書館員に残された道ではないでし

ょうか。理想は、遙かに遠いものですが、一歩一歩、近づけるよう前進したいと思っています。  
(蔵本分館情報調査係長)

## 全国共同利用大型コレクション案内 (昭和55年度～昭和57年度)

### 運 用 係

文部省は、国立大学から申請のあった人文、社会学系の大型資料購入費の配分を昭和53年度より実施しています。これらの資料は、学内外の研究者の共同利用を目的としております。

下記に昭和55～57年度、各大学において購入された大型コレクションを紹介いたします。資料の内容については購入大学より目録等が送付されているのもありますので、目録等の閲覧を希望される場合は、本館の運用係でお尋ね下さい。なお昭和54年度大型コレクションの一覧表は館報No.23に掲載していますので御覧ください。

#### 大学名                      資 料 名

##### 昭和55年度

- 北 海 道    ◦ 初期英国文芸誌コレクション  
                  ◦ 英国外務省外交記録, ロシア・ソ連関係文書
- 北海道教育    ◦ 英国議会教育関係議事録
- 東 北        ◦ アメリカ各州判例集
- 秋 田        ◦ 児童発達, 精神病学及び心理学古典コレクション
- 図書館情報    ◦ N T I S, 図書館学, 情報科学研究レポート 1971～1976
- 千 葉        ◦ ゲルマン史料集成一史家, 法律, 国王文書等
- 東 京        ◦ 英国政府刊行物コレクション
- 東京医科歯科    ◦ ルーヴィエール文庫
- 東京外国語    ◦ モンゴル大蔵経
- 東京学芸      ◦ フランス教育学集書

- 東 京 商 船    ◦ 米国海事関係裁判判例集 (1923～1955年)
- 横 浜 国 立    ◦ 世界各国地図帳集成
- 金 沢        ◦ 州主題別法令集 (U・S・A)
- 名 古 屋      ◦ ホップスを中心とするイギリス思想史原典コレクション第2期
- 愛 知 教 育    ◦ トレブナー古典叢書
- 滋 賀        ◦ アメリカ産業会議刊行物
- 京 都        ◦ ペルシャ語文献資料集成
- 大 阪        ◦ 欧州各国公式経済統計資料 (1841～1970年)
- 大阪外国語    ◦ イタリア著述家全集
- 神 戸        ◦ 主要米国会社年次報告書
- 奈 良 教 育    ◦ ドイツ・スポーツ教育学コレクション
- 奈 良 女 子    ◦ 都市問題博士論文集
- 島 根        ◦ ドイツ最高裁判所全判例集セット
- 岡 山        ◦ グロズ・シレー判例集
- 広 島        ◦ ドイツ大学史コレクション
- 山 口        ◦ 米国議会経済合同委員会報告書
- 九 州        ◦ 註釈付米国各州法令集
- 熊 本        ◦ シンテーズ文庫

##### 昭和56年度

- 北 海 道    ◦ 基礎法学並びに一般史関連コレクション
- 東 北        ◦ 19世紀英国議会報告
- 茨 城        ◦ 英国政府刊行統計資料集成
- 図書館情報    ◦ ロシア, ソ連書誌・図書館学資料集成
- 筑 波        ◦ パウハウス双書と展覧会目録コレ

- クシヨソ
- 宇都宮 ○世界農林業センサス
- 群馬 ○柳堂日記
- 埼玉 ○経済統計基本文献集
- 千葉 ○米国経済基本統計資料集
- 東京 ○米国政府刊行物コレクション  
米国連邦議会資料集
- 東京学芸 ○ロシア、ソビエト教育研究雑誌コ  
レクション
- 東京芸術 ○交響曲大成 1720~1840
- 新潟 ○科学史関係文献コレクション
- 長岡技術科学 ○工学・技術政策関係文献
- 福井 ○ハクリュート協会議書
- 山梨 ○障害者の社会参加映画
- 信州 ○アメリカ合衆国経済関係官庁及び  
行政委員会資料
- 岐阜 ○静嘉堂文庫
- 名古屋 ○18・19世紀ヨーロッパ総合雑誌集成
- 愛知教育 ○保健体育、レクリエーション研究  
文献集成
- 三重 ○明治、大正、昭和期土地経済及び  
経済統計資料
- 京都 ○ワイマール共和国コレクション
- 京都工芸繊維 ○ポスター専門誌 (1898~1901年)
- 大阪 ○法学及び国際法関係図書コレクシ  
ヨソ
- 大阪教育 ○知性 (旧名・学校と社会)
- 兵庫教育 ○全米カリキュラム資料集
- 神戸 ○国連公式記録集
- 和歌山 ○心身障害者の社会参加と平等に関  
するコレクション
- 鳥取 ○コロンビア大学教育学叢書
- 広島 ○教育資源情報センタードキュメント
- 香川 ○アメリカ合衆国連邦裁判所判例集
- 高知 ○中国社会思想史コレクション
- 九州 ○英国議会議事録
- 佐賀 ○東寺百合文書
- 大分 ○中世教会史叢書
- 昭和57年度判明分**
- 北海道大学 ○ソ連の対外関係に関するエプシュ  
タイン蔵書
- 帯広畜産大学 日本帝国統計年鑑 第1~59回:  
明治15~昭和15年
- 東京商船大学 Transportation Masterfile (U.S.  
Historical Documents Inst.) 1921  
~1971. マイクロ版
- 山梨大学 ○文部省選定社会教育映画体育・レ  
クリエーション編8mmフィルム
- 金沢大学 ○Verhandlungen des deutschen  
Bundestages. Stenographische  
Berichte. 1(1949)~116(1980).  
*Ibid.* Anagen zu den stenogra-  
phischen Berichten. 1(1949)~  
267(1980). *Ibid.* Register Wahl.  
1(1948)~8(1976/80). Archives  
palamentaries de 1787 a 1860.  
1)Maidron, Ernest:Les Affiches  
Illustress.1886.2) *Ibid.* 1886~  
1895.  
3)Bauwens, M., et al. ; Les Affi-  
ches Etranges Illustress.1897.
- 島根医科大学 ○人口動態統計 昭和21~55.
- 鹿児島大学 ○チャレンジャー学術探検研究報告
- 琉球大学 アメリカ公民権闘争の歴史

## 会 議

附属図書館運営委員会 (昭和58年度第1回~第4  
回)

○第1回 昭和58年4月25日(月)(於 附属図書館)  
議 題

1. 附属図書館の本年度の運営方針について
2. 昭和59年度概算要求事項等について

### 3. その他

○第2回 昭和58年5月23日(月)(於 蔵本分館)  
議 題

1. 昭和57年度附属図書館経費決算書について
2. 昭和58年度附属図書館経費所要額について

○臨時 昭和58年6月14日(火)(於 蔵本分館)  
報 告

1. 本館書庫等の増築について

2. 常三島地区運営委員会報告
- 第3回 昭和58年7月4日(月)(於 附属図書館)  
議 題
1. 昭和58年度学生用図書購入費配分(案)について
  2. 昭和58年度参考図書購入費配分(案)について
  3. 徳島大学附属図書館業務電算化委員会要項(案)について
- 第4回 昭和58年9月19日(月)(於 蔵本分館)  
議 題
- 昭和58年度教養図書購入費の配分(案)について

## 出 張

(昭和58年6月1日～昭和58年11月30日)

- 6月8日 第30回国立大学図書館協議会総会  
～11日 (於 北海道厚生年金会館)  
出席者 図 書 館 長 小林 茂  
事 務 長 志方 顕次
- 6月30日 学術雑誌総合目録と文編新版データベースのデータ記入説明会  
(於 大阪大学図書館吹田分館)  
出席者 整 理 係 長 三井 忠臣
- 7月18日 FACOM講習会  
～23日 (於 大阪市富士通株式会社)  
出席者 運 用 係 岡田 恵子  
受 入 係 元山 光代  
蔵本分館運用係 村田 康彦  
蔵本分館整理係 渡辺 章夫
- 7月27日 第10回医学図書館セミナー  
～30日 (於 富山市銀嶺荘)  
出席者 蔵本分館運用係 村田 康彦
- 8月22日 第18回医学図書館員研究集会  
～25日 (於 大阪市なにわ会館)  
出席者 蔵本分館受入係 吉田 敬治
- 9月11日 第4回大学図書館研究集会  
～14日 (於 埼玉県国立婦人教育会館)  
出席者 運 用 係 長 上田 智一
- 10月26日 第54回日本医学図書館協会総会  
～29日 (於 東京農林年金会館)  
出席者 蔵本分館受入係長 尾原 忠雄

- 11月9日 第10回国立大学図書館協議会中国・四  
～11日 国地区協議会及び同協議会係長会  
(於 高知市鷹匠苑)  
出席者 図 書 館 長 小林 茂  
事 務 長 志方 顕次  
受 入 係 長 助岡 君二
- 11月15日 第24回中国・四国地区大学図書館研究  
～18日 集会  
(於 高知会館)  
出席者 蔵本分館運用係長 桜木 強  
受 入 係 大西 恭子
- 11月16日 昭和58年度日本薬学図書館協議会研究  
～18日 集会  
(於 三重県湯の山グランドホテル向  
陽)  
出席者 蔵本分館整理係長 芳川 詩

## 来 館 者

(昭和58年6月1日～昭和58年11月30日)

- 11月29日 東京大学附属図書館  
文部事務官 濱村小夜子氏  
東京大学社会科学研究所図書室  
マイクロ班 班長  
塚越つた子氏

## 人 事 往 来

(昭和58年6月1日～昭和58年11月30日)

- 退 職 上田菜穂子 受 入 係 58. 6. 30  
米田 圭子 蔵本分館運用係 58. 7. 9  
南 妙子 " " "
- 金澤 誠治 運 用 係 58.10.31  
古味 孝夫 " "
- 一柳千鶴子 " "
- 採 用 高田 佳枝 受 入 係 58. 7. 1  
長谷 明美 蔵本分館運用係 58. 9. 11  
西田 洋子 " " "
- 古味 俊二 運 用 係 58.11. 1  
大西 教幸 " "
- 遠藤 正己 " "  
福田 謙一 " "

## 目 次

一字の是非…………… 1	会 議……………10
図書館と国民性…………… 3	出 張……………11
閲覧業務の電算化について（案内）…………… 5	来 館 者……………11
D I A L O Gの利用について…………… 6	人 事 往 来……………11
蔵本分館情報調査係の役割…………… 8	編 集 後 記……………12
全国共同利用大型コレクション案内…………… 9	

## 開館時間

授 業 期		休 業 期	
月 ～ 金	土	月 ～ 金	土
9 時～20 時	9 時～16 時30 分	9 時～17 時	9 時～12 時30 分

## 編 集 後 記

我々の子供の頃は新年になれば、あちらこちらではねつきの音が聞こえて、何ともいえない風情があった。最近はまさにスピード時代でこういった風情がなくなったようだ。これも時代の流れだろう。反面何かにつけて便利な世の中になった。特に機械化の進歩はめざましい。コンピューターがその代表ではなからうか。

図書館もこれに便乗したつもりではないが今年からコンピューター導入で、今までとは少し勝手が違ってくる。いくら文明が発達しても人の心だけはギクシャクしないでおりたいものだ。

編集：発行 徳島大学附属図書館  
 (〒 770) 徳島市南常三島町 2 丁目 1 番地 徳島 (0886) 23-2310 内線 (338)